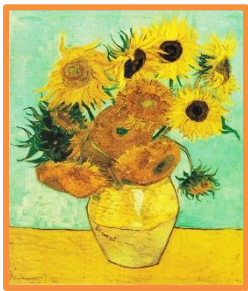


令和 5 年度 大学塾 第 3 ステージ 開催講座 案内

ポスト印象派を楽しむ (ゴッホ・ゴーギャン・セザンヌ)



ゴッホ「ひまわり」

ポスト印象派を代表する画家はゴッホ・ゴーギャン・セザンヌの 3 人です。彼らは印象派から出発しますが、印象派を乗り越えようと努力します。ゴッホとゴーギャンは一時期共同生活を送ったことがあります。印象派のように 3 人で一緒にグループ展などを開いたわけではありません。印象派の影響を受けつつ、独自に自分の新しいスタイルを作り上げていったのです。3 人の画家の作品の数々を楽しみながら、その魅力を探っていきましょう。

講 師 : 島田 紀夫 氏 前ブリジストン美術館館長 実践女子大学名誉教授
日 時 : 11 月 8・15・22 日 (水曜日) 全 3 回 午後 2 時~4 時
会 場 : 足立区生涯学習センター (学びピア 21 内) 4 階 講堂
講義内容 : 第 1 回 炎の人 ゴッホ
第 2 回 タヒチを愛した画家 ゴーギャン
第 3 回 近代美術の父 セザンヌ

荒川流域活動団体紹介ブースへの出展

あだち自然体験デー あらかわを遊びつくそう!

9 月 16 日 (土曜日)

足立区新田の河川敷「新田わくわく♡水辺広場」に於いて、多くの区民の方たちが荒川を知り触れ合うきっかけとなる自然体験をテーマとしたイベント「あだち自然体験デー」が 4 年ぶりに開催されました。**わくわくエリア**では、荒川本流で魚釣り、草原での虫とりや自然素材を使用した草花クラフト、昔あそびなど。**自然体験エリア**では、水辺や池の中、カニが生息する湿った草原で生き物さがし。**消防体験エリア**では、消防車がやってくる! 暴風体験、初期消火体験など。**荒川流域活動団体紹介**ブースでは、足立区、北区で活動している荒川流域団体の活動内容の紹介と展示、荒川の素材を利用したものづくり体験などが行われました。

今回も「楽学の会」は、参加団体の協力でパネルの展示や会の紹介チラシ、講座チラシ、楽学ニュース、報告書を配布、説明いたしました。猛暑で注意報が出る中、好天に恵まれ会場には約 5,000 人が訪れました。様々な自然との触れ合い、体験を通して多くの方に荒川を知って頂く機会になったと思います。(金子 勝治)



令和5年度 大学塾 第2ステージ 開催報告

特別講演会「徳川家とあだち」 ～徳川將軍家ゆかりの地～

今年の特別講演会は、9月18日（月・祝日）生涯学習センター講堂で102名の方にお集まりいただき開催いたしました。講師はおなじみのお江戸ル"ほーりー"こと堀口茉純氏です。今年の大河ドラマ「どうする家康」にからめて、「徳川家とあだち」～徳川將軍家ゆかりの地～というテーマでした。

パリ万博に行ったプリンス徳川（徳川昭武、後の水戸藩主）の浮世絵に始まり、徳川家と千住との関わりに入りました。徳川家康にとって千住の位置づけは奥州征伐をめざすための奥州街道へ向けてのルート確保の要衝でした。千住は江戸幕府の元に江戸四宿の一つ「千住宿」として整備されていき、江戸四宿のなかでも最大規模でした。江戸から出るための御橋、千住大橋は江戸で一番大きな橋であり、江戸の名所となりました。当時の千住大橋の橋杭は伊達政宗が寄進した水に強くて朽ちにくい高野槨だと言われており、広重の浮世絵「千住の大はし」はあまりにも有名です。また、橋を舞台に豊作祈願として両側からの綱引き大会をやって賑わいました。

日光道と水戸・佐倉道の分岐点は現在の千住5丁目清凉寺のあたり、立派な槍掛けの松があったそうです。松は枯れてしまったが、槍かけの松にちなんだ槍かけ団子が今も名物として残っています。街道入口の千住小橋あたりには髪結い床があったといい、千住のこの辺りに今もヘアサロンが多いのはその名残でしょうとのことでした。

また、徳川將軍家の趣味は鷹狩でした。あだちは鷹狩にもってこいの地であり、2代、3代將軍は千住によくきたそうです。3代將軍家光は千住がお気に入りです。50回も千住に鷹狩に来た記録があるとのことでした。鷹狩時の千住御殿が作られた所が千住2丁目にある勝専寺（赤門寺）でした。千住の地名はこの寺にある千手観音立像の千手が転じたものとも言われています。また、現在は東京拘置所となっている所に小菅御殿も造営されました。

5代から7代までの將軍は鷹狩をしなかったそうですが、8代將軍吉宗は鷹狩を復活させ、鷹狩時に千住5丁目にあった茶屋、松風庵（爺が茶屋）で休息をとりました。そしてそこに輝く光茶釜を褒めたそうです。同じ千住5丁目にある名倉医院は江戸時代から接骨医で有名ですが、相撲取りや役者、絵師などからは治療費を取らなかったそうです。北斎や文化人などとの関わりも多く、徳川將軍12代、13代の鷹狩時の休息所にもなっていました。現在も整形外科医院として診療されています。

徳川家にとって千住は重要な場所であったことがほーりーさんのお話からよくわかりました。テンポの良いお話がわかりやすく、千住の成り立ちや徳川家のことが楽しく聞け、新しい発見や知識を得ることができました。千住と徳川家とのつながりがわかり、江戸を身近に感じられました。など、受講者からの感想はとても好評でした。

厳しい残暑のなか、ほーりーさんはイギリスから帰国されて間がなく、まだ時差ぼけが残っている状況で大変だったことと思います。お手製の葵紋の陣羽織がとてもお似合いです。

1年ぶりの特別講演会で、動ける会員総出で取り組み無事に終了してホッとしています。

（林 令子）



新会員さんの活動報告

9月の月例会は、昨年入会された松下朋子さんに報告して頂きました。松下さんは入会して驚くことがとても多く、世の中の流れからかなり遅れているのではという指摘でした。会の中では若い松下さんにはこれからも改革しながら会を引っ張っていただきたいと思います。

以下が松下さんの報告内容です。

なお、新入会員の活動報告後、楽学の会 NPO 法人 20 周年記念事業開催に向けて、福田さんと金子さんより提案があり、みなさんで意見交換し、準備は出来る処から具体的な取り組みが始まっています。

(ボランティア活動推進部)

—活動報告—

昨年12月に入会してから10ヶ月経ちました。その間、事務局の業務を中心に会の活動に携る中、気がついたことがいくつかあります。

事務局の主な活動は以下の通です

- * 会の経理処理 元帳への伝票入力→元帳ファイルの新規作成
- * 現金管理 現金出納帳の記入 経費 受講料 講師謝礼等々
- * 講座受講料領収書の発行
- * 年度末決算資料作成
- * 総会資料作成
- * 関係関連省庁への報告
- * 楽学の会ニュースの発送

このような活動の中で驚いたことがありました

- ① Excel や Word のファイル形式が古い
上書保存のボタンをクリックすると忘れていた警告がでてきた（この表示をみるのは何年ぶりか）。PC の OS は Windows10 だが、ファイルは作成されてからファイル形式を変更せず上書きを続けてきたらしい。拡張子を変えるのは簡単！
- ② PC とプリンターが有線接続
何度か線を踏みひっかけたりそうにもなる。印刷やらスキャンは手間がかかる。Wi-Fi に常に接続して無線にしたい！
- ③ 何でも現金
講座の受講料を現金で受領しているため仕方ないが、ほぼ全てが現金。振り込みだけはもう少し利用したい。手数料がかかったり、金融機関へ足を運ぶ等面倒な点もあるが、担当者のストレスが減ること間違いない。世の中キャッシュレス時代！
- ④ 紙の資料がいっぱい
半年でファイルがいっぱいになってしまった。何故こんなに紙だらけ？

数え上げるときりがありませんが、20年以上前に戻ったような状況だと感じました。会は今年20周年を迎えました。発足当時と今を比べると、世の中の変化と会の変化の度合いには大きな隔たりがあるのではないのでしょうか？その距離感に気がつかないふり続けることができない時期が来ていると思います。人の身体は少しずつ老いていきます。組織も何もしていないで老いていきます。

(事務局 松下 朋子)



足立の花火と歴史

「荒川の夜空を彩る夏の風物詩」

荒川の河川敷で開催される「足立の花火」の起源は明治時代。千住大橋の落成を祝い花火が打ち上げられたのが始まりといわれています。

大正 13 年(1924)、千住新橋の開通を記念して第 1 回「千住の花火大会」の名称で開催され、翌年からは毎年開催されて多くの庶民に親しまれるようになりました。その後、第 2 次世界大戦の影響を受けて昭和 14 年(1939)には姿を消しました。荒川の花火は戦争で一時中断していましたが、戦争が終わると、昭和 24 年(1949)には、区民待望の「千住の花火大会」として再開され区民の憩いの場として定着。昭和 33 年(1958)まで続けられましたが、荒川河川改修工事により昭和 34 年(1959)を最後にふたたび幕を下ろしました。昭和 50 年頃になると、区民の間に足立の花火の復活を望む声が強くなり、昭和 53 年(1978 年)に再開され区民納涼大会のアトラクションとして 800 発の花火が打ち上がり大変好評を得ました。また翌、昭和 54 年(1979)には「足立の花火大会」として名称を変えて開催され、3,700 発が華々しく打ち上げられ復活を待ちわびた多くの観衆を酔わせた。

前身の「千住の花火大会」の開催から 20 年後のことである・・・。

打ち上げの会場も千住新橋と常磐線鉄橋の間、旧日光街道が川に突き当たる(今の虹の広場)付近で行われていましたが、千住新橋から西新井橋までを新たな会場として大規模に開催されることになり河川の環境も整備され、更に第 30 回(2008 年)からは「足立の花火大会」の名称が「足立の花火」に正式な名称として変更され今日に至っております。

戦前から都内では両国の花火と共にその名をはせた「千住の花火」、今では、足立区の花火大会は「足立の花火」と呼ばれて 100 年を超える歴史を持つ伝統のある花火大会として毎年 60 万人を超す観衆を魅了する夏の風物詩として区民ほか多くの方々に親しまれています。

しかし、令和 2 年(2020 年)には、新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延、感染の防止対策として開催が中止となりました。令和 5 年(2023 年)ようやく新型コロナウイルスの感染も収まりが見え始め、今年は 4 年ぶりの開催となる。

夏の風物詩、東京の夏に行われる大規模花火大会の先陣を切る、第 45 回「足立の花火」-とびっきりの夏が来る- 華々しい花火と音楽の共演。第 1 幕は、「4 年ぶりとなる「足立の花火」の幕開けは 3 か所からのワイドに彩る一斉打ち上げ」第 2 幕は、「日本最古の花火と言われる「和火」。その暖かみのある灯りで足立区が歩んだ花火の歴史を表現」第 3 幕は、「ナイアガラと言えば足立の花火。今年は 2 本の滝が連なるダブルナイアガラ、全長 250m にわたる白い眩いその輝きは、希望の光となって足立の空に降り注ぎます」第 4 幕は、「第 40 回足立の花火から盛り込まれ、人気の演出となったレーザーと花火の共演」第 5 幕は「足立の花火のグランドフィナーレを飾るその演出はまさに黄金のしだれ桜」をテーマに、ナイアガラをはじめ、スターメイン、レーザーと音楽に合わせた花火など多彩で魅力満載のプログラム、第 5 幕では、進化した新作花火「ローリング」も登場、約 15,000 発の花火が夏の夜空の風物詩として、また、フィナーレは黄金のしだれ桜が荒川の夜空を彩りました。

(金子 勝治)



サービス会アーケード (昭和 29 年)
「写真で見る足立区 40 年のあゆみ」より



(西新井橋・千住新橋間 打ち上げ会場 足立区 HP より)
2019 版-改



令和5年9月雲影委員会 報告・連絡

日時：令和5年9月1日(金) 14:30～
場所：生涯学習センター：5階 研修室 4

代表挨拶：報告および提案

過去に例のない暑さが続いている今年の夏ですが8月は活動をお休みさせていただきました。今月は明日から2講座が準備されています。まだまだ暑い日が続くようです。くれぐれも体調に留意いただき運営にご協力いただきたいと思います。事務局当番についても猛暑が継続し大変ですが、皆様の参加よろしくお祈いします。

議 事

- (1) 情報交換：
 - ・国立教育政策研究所 令和5年度地域教育力を高めるボランティアセミナー「共生社会を実現するための社会教育とボランティア活動の在り方」
10月31日(火) オンライン(ライブ配信) メール申込9/13まで 希望者は事務局まで連絡。
- (2) 月例会開催について
 - ・8月 休会
 - ・9月 9月15日(金) 新会員の活動報告。
 - ・10月 10月17日(火) 内容は今後検討する。
- (3) あだち区民大学塾：講座企画会議：9/1(金)、10/2(月) 検討会議：9/15(金)、10/17(火)
 - ・8月 講座なし
 - ・9月 西郷隆盛の生涯と幕末・明治 大沢正明講師 9/2、16、24、30 申込締切8/21、応募者37名
徳川家とあだち 堀口茉純講師 9/18(祝、月) 申込締切9/4 応募者112名
 - ・特別講演会「徳川家とあだち」講座チラシを足立区情報スタンド設置差込が許可される。
12ヶ所 240枚：8/1～8/31 分担してチラシ設置した。
 - ・10月 鷗外と漱石—交差する二人 倉本幸弘講師 10/15、29、11/5 申込締切10/2
池波作品を愉しむ 鶴松房次講師 10/22(日) 申込締切10/9
 - ・「池波作品を愉しむ」講座チラシを足立区情報スタンド設置差込が許可、前回と同じ場所。
9/4～9/30 チラシをインフォメーションコーナーに設置する。
9/10頃にカラーチラシと差し替える。前回の担当者に依頼した。
- (4) NPO法人設立20周年記念事業
企画書(案) 提案し承認された。実行委員長：篠原
 - ① 20周年記念誌発行：10月末原稿完、11/末印刷完で進める。
記念誌編集委員長：金子、編集委員：神戸、糸井、林、福田、松下、
 - ② 報告会：リーダ：糸井、
 - ③ 祝賀会：リーダ：林、福田、
*場所はセンター7階「さくら」が閉鎖しその後の見通しないので
区役所14Fの「ソラノシタ」の可能性を調べる。担当：金子
- (5) 各部局からの報告および提案
 - ① 学習支援部：特になし
 - ② ボランティア活動推進部 ・部会：9/6
 - ・サークルフェア2023：10/7、8：参加 展示場所は4階ロビー、9/2全体実行委員会あり。
サークルフェアのパンフレット 出席者へ配布済。
 - ・あだちNPOフェスティバル：11/19：参加、エルソフィア3階 第2学習室。
 - ・あだち自然体験デー：荒川河川敷 新田わくわく広場 9/16 「楽学の会」パネル展示/チラシ。
 - ③ 事務局
 - ・ニュース発送：9月なし、部会：9/12
 - ④ 広報グループ
 - ・ニュース：8月なし、ホームページ/メルマガ：月次更新。
- (6) その他
 - ・令和5年度9月の事務局当番募集し、9/1に9月分の当番決定しました。
 - ・「社会教育」9月号ロッカーに。



次回 運営委員会 10月2日(月) 14:30から(研4)

◎講座名：脳と心の健康 あだち 100 年大学講座 ブレインフード・ムードフードと予防医学

日 時：11/5 (日) 午前 10 時～正午

対 象：16 歳以上の方

会 場：5 階 研修室 1 (対面)

受講料：800 円

定 員：対面 30 人、オンライン 10 人
(どちらも事前申込先着順)

講 師：矢澤 一良 氏

(早稲田大学ナノ理工学研究機構)

内 容：健康を維持するためには体の健康だけでなく、脳と心の健康も大切です。認知症やストレス・不眠に有効な栄養素、またそれらを毎日の食事から上手に摂取できる「ブレインフード・ムードフード」を紹介します。

◎講座名：始皇帝と兵馬俑 あだち 100 年大学講座

日 時：11/11 (土) 午後 1 時 30 分～3 時

対 象：16 歳以上の方

会 場：5 階 研修室 1 (対面)

受講料：800 円

定 員：対面 50 人、オンライン 10 人
(どちらも事前申込先着順)

講 師：鶴間 和幸 氏 (学習院大学 名誉教授)

内 容：紀元前 221 年に天下統一を果たし、史上初の「皇帝」となった始皇帝の墓を守る兵馬俑。今なお発掘の終わらぬ兵馬俑の謎と中国史の魅力に迫ります。

**お申込みは：電話(03-5813-3730) 又は直接窓口
インターネット [近所 de まなびナビ] で検索
イベント・講座情報→講座予約システム**

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講座の中止、延期の場合もございます。予めご了承ください。

令和 5 年 10 月「月例会」のご案内

10 月 17 日 (火) 午後 15 時～ 研修室 4

テーマ：防災 災害時の協力体制について

令和 5 年 11 月「月例会」のご案内

11 月 16 日 (金) 午後 3 時～5 時 研修室 4

会 議：NPO 設立 20 周年事業 準備会議

* 皆様の積極的な参加をお待ちしています。
(ボランティア活動推進部)



白日紅(サルズベリ)

- ◎ 運営委員会
10 月 2 日(月) 午後 2 時半～4 時 研修室 4
- ◎ 月例会
10 月 17 日(火) 午後 3 時～5 時 研修室 4
- ◎ 学習支援部
10 月 17 日(火) 午後 1 時～2 時 ワークルーム
- ◎ ボランティア活動推進部
10 月 4 日(水) 午後 2 時～4 時 ワークルーム
- ◎ 事務局
10 月 3 日(火) 午後 2 時～4 時 ニュース発送
10 月 11 日(水) 午後 2 時～4 時 事務局部会
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
10 月 17 日(火) 午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 大学塾講座企画会議
10 月 2 日(月) 午後 1 時半～2 時半 研修室 4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
10 月 16 日(月)

★お問い合わせ&ご意見

- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 福田哲郎 電話:090-3207-8444
E-Mail : tefukuda2002@ybb.ne.jp

編集後記

脱炭素化社会に向けての取り組み(その 9) 地球の温暖化が急速に進んでる

地球の温暖化は温室効果ガスの増加が主な原因です。温室効果ガスには、二酸化炭素・メタン・フロン類・一酸化二窒素などがありますが、なかでも、地球の温暖化に最も大きな影響を及ぼしているのが二酸化炭素です。温室効果ガスの総排出量に占める割合では、産業革命以降の化石燃料に由来する自動車産業や火力発電事業が、65.2%、大規模な土地開発利用による森林の減少が 10.8%と、人為的要因による二酸化炭素の総排出量が 76%を占めています。次いで多い「メタンガス」は、天然ガスの採掘や家畜のゲップにより排出されています。化石燃料を大量に燃やしたり人口増加にともなう家畜の増加の 2 要因が今日の地球温暖化の大きな要因と言えます。「2100 年未来の天気予報」では、このまま脱炭素化社会に向けての有効な対策を執らずに地球の温暖化が進行すると、産業革命(1880 年代後半)以前からの気温上昇を 1.5℃に抑える目標から、平均気温が最大 4.8℃上昇すると予想されています。2100 年 8 月、日本各地の最高気温は、東京 43.3℃、名古屋 44.1℃、鹿児島 41℃、北海道でも 40.5℃になるとシミュレーションされている。WMO・EU の気象情報機関は、2023 年 7 月の世界平均気温が観測史上で最高およそ 12 万年ぶりを記録したと警鐘を鳴らす。日本に於いても観測が始まって以降、最も暑かった 1978 年の記録を 45 年ぶりに更新、観測史上最も平均気温が高かったことが気象庁の観測データの分析で分かりました。国連の事務総長も「地球沸騰時代が来た」各国は言い訳を辞めて具体的な行動をとるよう求めた。地球温暖化問題は最も急務で、国として具体的な施策や管理目標を定めて行政機関がその推移を監視することが重要だと考えます。SDGz13(気候変動に具体的な対策を)を実践している地域レベルでの取り組みとあわせて、個人一人一人が温暖化問題に更に積極的に行動を起こしていくことが最重要だと感じます。

(金子 記)